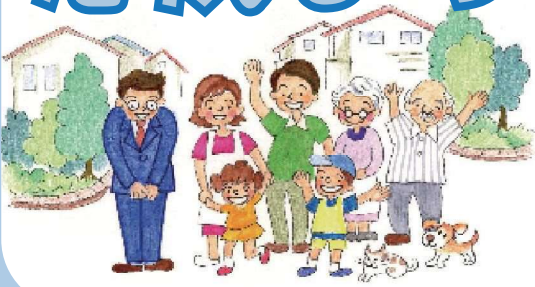


防災性能と居住環境の向上を図り安全で住みよいまちづくりを目指して

志茂まちづくりニュース



特別号

令和4年3月発行

発行：北区まちづくり推進課



北区ホームページ検索 『志茂地区のまちづくり』

志茂防災まちづくりのあゆみ

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、協議会の開催が困難な状況でしたが、志茂の防災まちづくりについて振り返る契機と捉え、皆様のご意見を伺いながら本ニュースを発行しました。



平成20年8月
防災訓練のようす



平成21年4月
志茂子ども交流館オープニングセレモニー



平成29年4月
志茂四わかば児童遊園開園式



平成30年8月
「荒川の治水を学ぶ」講習会



令和元年11月
防災工作会(しもっこフェスティバル出店)



令和3年12月
志茂子ども交流館声かけパトロール

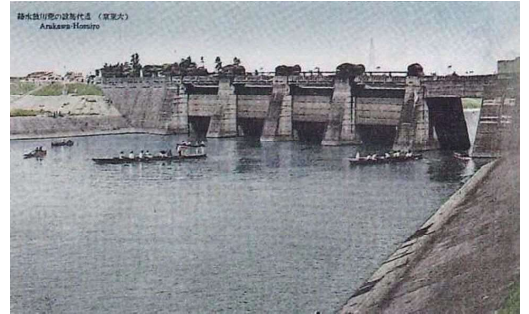
地区の沿革

◆位置・概要

- ・志茂地区は北区の北東部、隅田川沿いに立地し、地区の中央を北本通り（国道122号線）が走っています。
- ・北本通りの地下を走る東京メトロ南北線の志茂駅が接しているほか、多くの路線が乗り入れる赤羽駅も徒歩圏内にあります。

◆歴史

- ・志茂地区周辺は稲作が盛んな地域でした。
- ・江戸時代には、隅田川を利用して多くの荷物が船で運ばれましたが、一方で川は氾濫を繰り返し、生活を苦しめました。
- ・大正時代に岩淵水門が完成し、洪水の心配がなくなると、川沿いを中心に工場が建ち並び、住む人たちが次々と増え、市街化が始まりました。
- ・関東大震災後には都市部から人口が流入し、市街化が加速し、木造密集地域が形成されました。
- ・赤羽駅周辺では、戦時中空襲による被害を受け、戦後に区画整理が行われましたが、志茂地区では木造密集地域が残されました。
- ・近年では、工場移転が相次ぎ、住宅などが増えてきました。



↑旧岩淵水門（赤水門）

完成当時の赤水門の色は、灰色でした。新しい岩淵水門（青水門）が昭和57年に完成し、赤水門は役目を終えました。

出典：北区の歴史はじめの一步赤羽東地区編改訂版（北区中央図書館）

～熊野神社の「白酒祭り」～

熊野神社（志茂4丁目）で毎年2月7日に行われるお祭りは、荒川の水を利用してつくった白酒をみんなに配ることから「白酒祭り」と呼ばれています。祭りの日には「オビシャ」といって、「鬼」と掛かれた1.8mもの的をめがけて弓矢を射る神事が行われます。とても珍しい行事であり北区の無形民俗文化財に指定されています。

出典：北区の歴史はじめの一步赤羽東地区編改訂版（北区中央図書館）



◆ぼうけん会の活動（H8年度～16年度）

- ・平成7年度に志茂地区（志茂3～5丁目、岩淵町及び神谷3丁目の一部）が防災生活圈促進事業導入地区に選定され、その計画を住民協議会方式で作成するため平成8年12月に「防災生活圈促進事業を進める会（通称：ぼうけん会）」が設立されました。
- ・会では、まち歩き、危険個所の点検、防災まちづくりの事例視察を行い、平成9年8月には「防災まちづくり計画書」を区に提出しました。
- ・平成10年度には、ワークショップを通して、地域の皆さまよりご意見を出して頂き、岩淵かっぱ広場の整備を行いました。



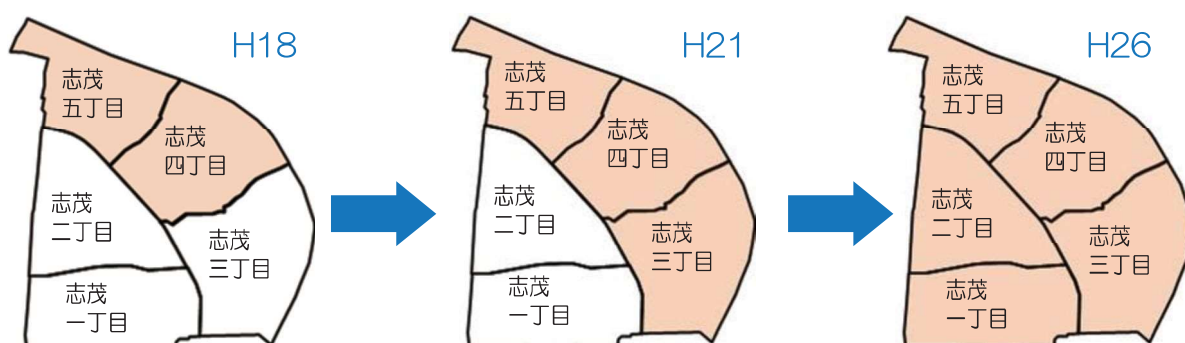
岩淵かっぱ広場開園式
（平成11年5月）

まちの動きと協議会活動のあゆみ

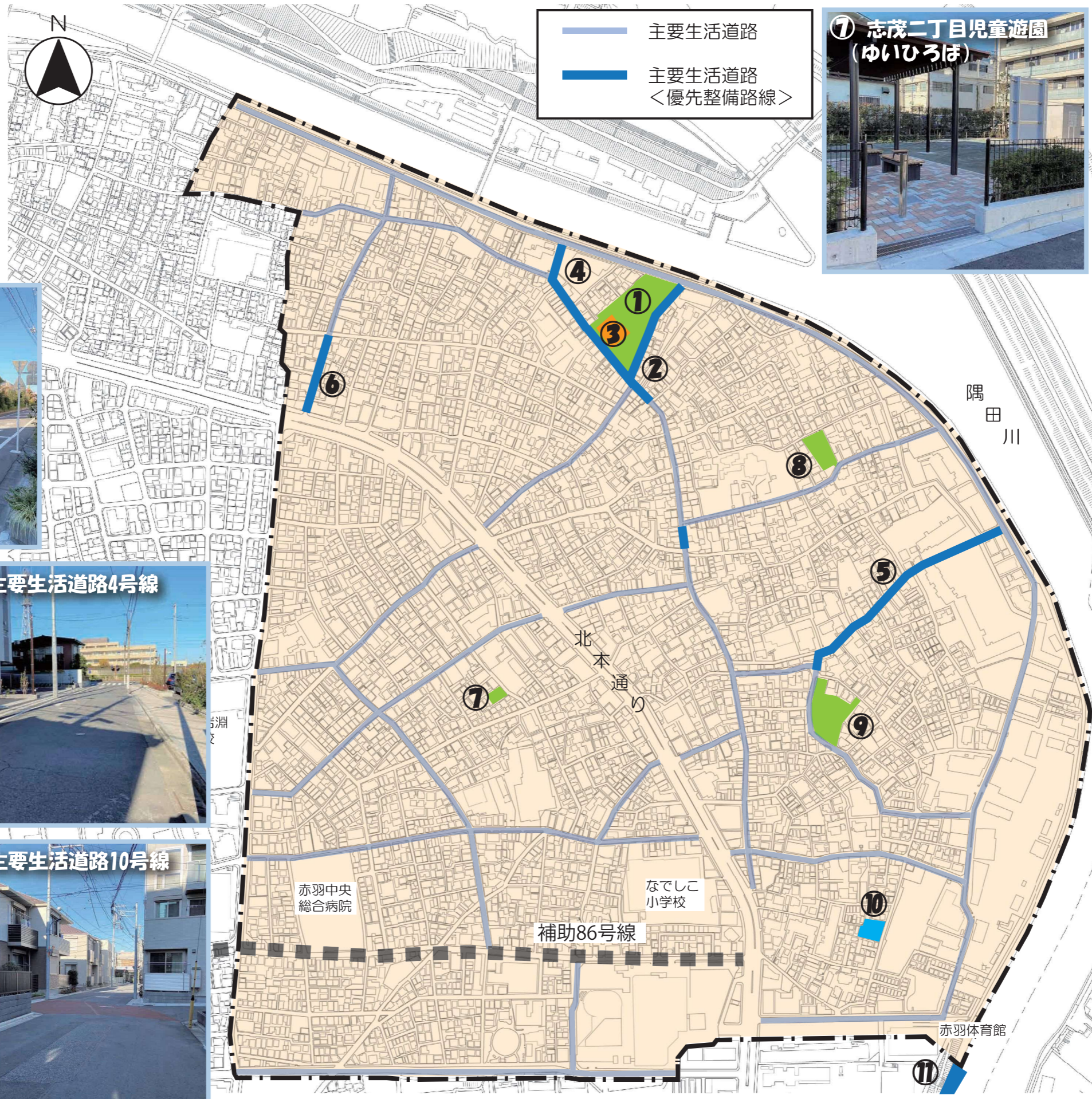
- 平成16年～17年にかけて密集事業の計画づくりのワークショップ「ワークショップin志茂」が開催され、地区の皆さんの参画を得て検討が進められ、平成18年7月に「志茂まちづくり協議会」が設立されました。
- 志茂まちづくり協議会では、旧志茂小学校跡地に整備された志茂子ども交流館や志茂ゆりの木公園に関する話し合い、新設公園・児童遊園の話し合い、まちづくりルールの勉強会、防災イベントなど様々な取り組みを行ってきました。

| 年度 | 協議会活動のあゆみ | まちの動き |
|-----|--|--|
| H18 | 志茂まちづくり協議会設立 | 密集事業開始（志茂4・5丁目） |
| H19 | 旧志茂小学校跡地暫定利用 志茂子ども交流館先進施設見学会 志茂子ども交流館整備の話し合い | 新たな防火規制（新防火区域）を導入（志茂4・5丁目） |
| H20 | 志茂ゆりの木公園プランづくり話し合い | |
| H21 | 志茂ゆりの木公園名称・管理運営の話し合い | 志茂子ども交流館開館 密集事業・新防火区域拡大（志茂3丁目） |
| H22 | 志茂三丁目小柳川公園の話し合い 災害時FM波実験放送（志茂はっぴいまつり） | 志茂ゆりの木公園開園 |
| H23 | 志茂三丁目小柳川公園の話し合い | |
| H24 | 防災マップづくり | 志茂三丁目小柳川公園開園 補助86号線「特定整備路線」に選定 |
| H25 | まちづくりルール（地区計画）勉強会 志茂四わかば児童遊園話し合い | |
| H26 | まちづくりルール（地区計画）アンケート 「地区計画」協議会（案）を区に提出 | 密集事業・新防火区域拡大（志茂1・2丁目） 志茂1～5丁目不燃化特区に指定 |
| H27 | 志茂四わかば児童遊園名称決定 | 防災街区地区計画決定、木密不燃化特区事業 都市防災不燃化促進事業（補助86号、地区防災道路） |
| H28 | 不燃化助成事業・支援制度の内容周知 | 志茂四わかば児童遊園開園 |
| H29 | 無電柱化勉強会 | 赤羽体育館開設・スーパー堤防整備 |
| H30 | 防災イベント「荒川の治水を学ぶ」講習会 志茂二丁目児童遊園（ゆいひろば）話し合い | なでしこ小学校新校舎開設 （志茂地域振興室・ふれあい館併設） |
| R1 | 防災イベント「防災工作会（しもっこフェスティバル出店）」 | 志茂防災船着き場完成 |
| R2 | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため 協議会活動を見送り | 志茂二丁目児童遊園（旧志茂地域振興室跡地）開園 志茂三丁目9番地区防災街区整備事業竣工 志茂スズラン通り商店街無電柱化事業認定（先工区） |

密集事業の
区域の
移り変わり



これまでのまちづくりの成果



志茂小跡地利用 ～子ども交流館・ゆいの木公園ができるまで～

◆平成14年 旧志茂小学校と旧第二岩淵小学校が統合

- 平成14年4月、志茂小学校と第二岩淵小学校が統合して、新たな第二岩淵小学校として出発して、さらに平成15年4月名前をなでしこ小学校に改めました。
- 統合に伴い、旧志茂小学校の場所が空き、後の志茂子ども交流館と志茂ゆいの木公園になっていきます。



旧志茂小学校

出典：北区の歴史はしめの一步
赤羽東地区編改訂版（北区中央図書館）

◆平成18年度～ 志茂まちづくり協議会で跡地利用検討開始

- 旧志茂小学校跡地に整備された志茂子ども交流館と志茂ゆいの木公園は、整備案をもとに話し合いが重ねられ、皆さんのご意見が反映されました。

【志茂子ども交流館に反映されたご意見】

「原則として、靴をぬがなくても利用可能とする」「災害時に、備蓄物資の搬出入が迅速に行えるよう「広場」側に防災備蓄庫を設置する」など

【志茂ゆいの木公園に反映されたご意見】

「夜間閉鎖とする」「ボール遊びが可能ないように、広場周辺のフェンスを防球フェンスにする」「トイレと消防団小屋を設ける」など

◆平成21年 志茂子ども交流館開館

- 平成21年4月4日にオープニングイベントが開催され、子ども達による和太鼓やダンスの披露、餅つきやお茶会などが行われました。



志茂ゆいの木公園開園式

◆平成22年 志茂ゆいの木公園開園

- 平成22年5月8日、志茂まちづくり協議会と志茂町会自治会連合会の共催による開園式が執り行われました。
- 開園式に続き、防災トイレ、かまどベンチ、防災テントなどの見学会も行われました。

志茂三丁目小柳川公園ができるまで

公園用地の見学



約2年間にわたる話し合い



完成間近な公園



- 志茂三丁目小柳川公園は、地元の皆さんの要望により、区が買収した日本化薬の研究所跡地に作られました。
- 「志茂三丁目小柳川公園プランづくり」及び「志茂まちづくり協議会」での約2年間にわたる話し合いを基に、防災機能を有する公園として整備され、平成24年7月に開園しました。
- 防災機能の他、段差を利用した遊具（すべり台）や築山、アスレチックや散策路などが設けられているのが特徴的です。

段差を利用した遊具



すべり台

防災に対する様々な取り組み

◆災害時ミニFM放送実験

- 平成22年度に北区の地域づくり応援団事業を活用して、災害時の情報伝達手段として、免許や許可が不要な微弱な電波を使ったミニFM（乾電池で使用可能）の放送実験を行いました。
- 2回にわたるワークショップでは、周波数の設定、機材操作の講習、放送テスト、受信可能範囲の測定、言葉による情報伝達講習等を行いました。
- また志茂子ども交流館で行われた「志茂はっぴいまつり」の会場でも放送テストを行い、平地にアンテナを設置する実験をしましたが、屋上に設置した場合とあまり変わらない範囲での受信が可能ということが分かりました。
- 放送機材は、今も大切に保管され、セッティングも専門業者なしで出来るものとなっております。
- 利用周波数88.8MHzの周知や、機材の更なる確保等による受信可能エリアの拡充など、今後の活用が考えられます。



↑志茂子ども交流館から約200mの範囲で受信可能でした。

◆防災マップの作成

- 東日本大震災を契機に、「地域住民の防災意識を高めるため、住民参加による防災マップを作成したい。」などの要望が高まり、平成23~24年度に各町会・自治会で防災マップが作成され、各戸に配布されました。
- 防災マップを作成するにあたり、各町会・自治会の代表者が集まり話し合いを行い、現場の確認なども行いました。
- 防災マップには、避難場所、街路消火器の位置、AEDの設置場所などが記載されています。



◆防災イベントの開催

- 子ども達に防災について興味を持ってもらうきっかけ作りや、より幅広い世代にまちづくり協議会の活動を知ってもらうために防災イベントを開催しました。

H30 「荒川の治水を学ぶ講習会」



荒川治水資料館の見学、旧岩淵水門の見学、災害対策支援船「あらかわ号」に乗船し治水対策の見学を行いました。

R1 防災工作会



「しもっこフェスティバル」に出店し、災害時に役立つホイッスルをデコレーションする防災工作会を行いました。

志茂のまちづくりへの思い

安心・安全なまちづくりのためには、今後もまちで暮らす方々がまちを気にかかけ、まちへの愛着を深めていく活動を続けることが大切です。

これまでのあゆみを振り返り、志茂のまちづくりに対する思いなど、まちの方々からお寄せいただきました。

志茂小学校の統合に伴う跡地利用の話し合いからまちづくり協議会へ参加しました。

志茂の地域に子どもたちの声が響く場所をとの思いから、「志茂子ども交流館」、防災機能を備えた「志茂ゆりの木公園」が誕生しました。合わせて周辺道路も拡がり、密集地域の解消の象徴ともなっています。

住む地域が住み良い街になってほしいとの思いは誰もが持っていますが、個人の力ではなかなか思うようにいきません。

住民と行政が知恵を出し合い、進めていくことができる「まちづくり協議会」の存在をこれからも大切にしていきたいと思えます。

志茂まちづくり協議会 田中 義正 会長

志茂は今でも下町情緒が少しだけ残っています。

木造家屋や年配者が比較的多く、四季折々の草花を植えてのんびりと楽しむ雰囲気があるように感じさせるのでしょう。

地域には子供会や老人会などありイベント等で多世代交流を深めています。

日頃も子供達や高齢者は地域で見守り、犯罪や災害時にもみんなで声を掛け合う様に心がけています。

そんな志茂も昨今は古い家屋は取り壊され新しい住宅や住民がふえ、防災面などでは改善された感じですがどこか違う町のようです。時代が昭和から令和に変わるように街並みもまた…。

ただ、ハード面は変化しても新しい住民がふえてもお互いの気遣いや共助の気持ちは持ち続ける志茂でありたいと思っています。

志茂まちづくり協議会 関谷 良子 副会長

協議会の発足時から参加しております。

これまで、4箇所の公園等の整備を話し合いを通じて実現できたのは、大きな成果だと思います。

一方で、近年は丁寧な議論を重ねる余裕が少なくなっていると感じています。

行政と地域住民との間に、双方向のやりとりができる風通しの良い関係を作り上げていくことが必要だと考えます。

志茂4丁目 菊池 晋吾さん

派手な防犯のチョッキに看板を持ち歩く怪しい集団。「こんにちは」「気を付けて帰ってね」と声をかけている…これは声かけ隊パトロールの一場面です。

交流館を利用する乳幼児親子、民生委員の方々や職員が12月の夕方、道を歩く人や子どもに声をかけ志茂の街を歩きました。

昨今世間一般では、地域のつながりが薄くなり、子どもに声をかけると不審者情報となることがあると聞きます。

志茂は地域のつながりを大切にしている街です。

これからも志茂子ども交流館の活動や遊びを通して、さらに大人と子どものつながりが一層深まり、安心安全の街「志茂」につながる活動を考えていきたいと思っております。

志茂子ども交流館 大島 幸子 館長



事務局
お問い合わせ先

北区まちづくり推進課（担当：丸山(た)、梶川）

電話：03-3908-9154 Fax：03-3908-2244

E-mail：machisuishin-ka@city.kita.lg.jp